



本日はよくお参り下さいました

暑い日々が続いていますが皆さんいかがお過ごしですか。今年も天神社夏の例大祭が行われます。一日目は菅原道真公のご神徳を称える「天満宮祭」と「湯立神楽」が行われ、二日目は八雲大神(スサノオノミコト)のご神徳を頂く「八雲祭(神輿渡御)」が行われます。体力が落ちやすく疫病が流行しやすいこの季節に、身も



心も減ってしまわぬよう行われるお祭りでもあります。一日目は、湯立て神楽で天神様の無病息災のご利益を、二日目は、神輿渡御で八雲様の疫病退散のご利益をいただきます。神輿渡御の範囲は内川町内の久里



浜から舟倉にわたる地域約20か所です。神社境内ではポップコーンやヨーヨー、やきそば、かき氷などの出店もあります。どうぞご

家族皆さままで楽しいひと時をお過ごし下さい。今月も皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。権禰宜 道子

8月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

5・6日 久里浜天神社例大祭

5日(土)天満宮祭 14:00～ 例祭斎行 於 社殿
15:00頃 湯立神楽奉納 於 境内
19:00～ 奉納踊り 於 境内
6日(日)八雲祭 08:00～ 神輿出御祭(しゅつぎよさい)
(神輿渡御祭) 09:00～ 神輿出御
21:00頃 神輿還御祭(かんぎよさい)

7日立秋(りっしゅう) この日から旧暦の上では、秋に入りますが、実際に残暑は厳しく、立春を起点として、上り坂に合った平均気温は、立秋の頃高温のピークに達します。しかし、風のそよぎ、雲の色や形に、何とはなしに秋の気配が感じられます。ひぐらしが鳴き始め、所により深い霧が発生します。暑中見舞いも、この日から残暑見舞いとなります。

11日山の日 山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する。

23日処暑(しょしょ)

暑さが止むの意味から処暑といえます。涼風が吹きわたる初秋の頃で、暑さもようやくおさまり、綿の花が開き、穀物が実り始め、収穫の候も目前となります。昔からこの頃は、二百十日と並び、台風の特異日とされており、暴風雨に見舞われることが少なくないので、注意が必要です。

天神さまの豆知識

湯立て神楽について

湯立て神楽は、境内に設置された「ヤマ」と呼ばれる色とりどりの紙で装飾を施した斎場の中で行われる神事です。神職が五座のお神楽を奉納します。

一座目「初能(はのう)」斎場を清めます。

二座目「お祓い」参列者を清めます。

三座目「幣招き」湯花で吉凶を占います。

四座目「笹湯」笹で釜の湯を撒きます。

五座目「剣舞」猿田彦の舞



笹湯(ささゆ)の様子

という流れで行われます。四座目の笹湯では、釜に沸かした熱湯を笹でかき混ぜ、参列者に向けて、お湯をふりまきます。この湯をかぶると、一年間無病息災でいられるといわれています。火傷するほどは、熱くないのでご安心下さい。五座目の剣舞は、猿田彦の重々しい舞の途中でモドキが登

場して子供たちが喜ぶようなことをします。お子様からご高齢の方まで、ご参加いただき、楽しみながら、無病息災のご利益をお受けいただければ幸いです。



「剣舞(けんまい)」の様子

今月の言葉

『折節のちがう事は』

悪しかるべし

飯尾宗祇「吾妻問答」より

季節や時節、そのときどき(折節)に合わないことは、好ましくない。四季に合った過ごし方や食材がある。人の一生にも折節がある。幼児期、少年期、青年期、壮年期、老年期、人間の折節に合った生き方、役割がある。一日の折節に逆らうのは好ましくない。朝起きて、日の光を浴び、日中はよく働き、夜眠るのが心身に良い。現代社会では難しいが、心身、人生が不調なときこそ、日常を折節に合わせてみよう。参考文献『神道のことば』武光誠監修河出書房発行